



酒飯論給巻（茶道資料館蔵）

特 別 展

水辺の文化の再発見

鴨にみる人と自然

平成7年10月21日(土)～11月23日(祝)

●開館時間／午前9:30～午後5:00

●休館日／月曜日・祝日の翌日

●観覧料／大人500円（400円）

高大生250円（200円）

小中生100円（80円）

（ ）内は20名以上の団体割引料



鷹狩図屏風（大阪市立博物館蔵）

【講演会】会場／当館講座室

●11月3日(祝) 午後2時

「日本における野鳥と肉食文化

野鳥をさかんに食べた日本人」

講師：伝承料理研究家・奥村彪生氏

●11月19日(日) 午後2時

「水辺の生活－人と鴨」

講師：国立民族学博物館・近藤雅樹氏



游禽図（永青文庫蔵）



吹田市立博物館

大阪府吹田市岸部北4丁目10番1号

電話：(06) 338-5500

■交通案内

阪急千里線吹田駅から

桃山台駅前・山田樫切山ゆきバス「佐井寺北」下車徒歩10分

阪急山田・千里中央・摂津ふれあいの里ゆきバス「岸部」下車徒歩10分

阪急千里線南千里駅から

JR吹田ゆきバス23系統「佐井寺北」下車徒歩10分

JR東海道本線岸辺駅下車徒歩20分

水辺の文化の再発見

鴨にみる人と自然

吹田市及びその周辺部には、かつて、鴨や雁等の水鳥が飛来し、豊かな恵みをもたらしてくれる大池や低湿地帯といった水辺がありました。

先人達は鴨を含めた自然環境を熟知することによって、鴨を営み、上手に自然とつきあい、水辺の文化を作り上げてきました。

冬の渡り鳥である鴨を対象とした鴨猟は冬場における生業のひとつとして独自の位置を占め、各地で環境に応じた猟法が発達しました。また、鷹を用いて鳥類等を捕獲する鷹狩りは古くから権力者の遊技として展開し、さらに、江戸時代、大名たちは、大規模な庭園内に鴨場という人工の池を作り、飛来する野生の鴨をとって身近に鴨を楽しみました。鳥類図譜の多くはこうした自然と親しんだ鳥好きの大名たちが制作したものです。

一方、食生活の面では鴨はすでに縄文時代には食され、貢納品や献上品にもされてきました。獣肉を忌避してきた日本人は魚鳥を重視し、儀式料理に用い、江戸期に庶民の食文化が開花すると鴨料理は広く愛好されました。

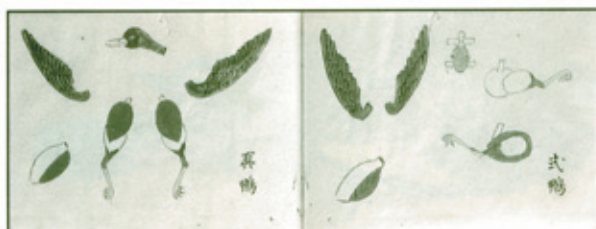
この展示では、鴨猟の猟具類や絵画作品、料理書、写真等をご覧いただくことにより、こうした鴨と人の関わり、歴史と文化を通じて、従来不毛なマイナスのイメージを抱かれていた水辺の持つ文化を見直していただく機会になれば幸いです。



モチナワ猟具（滋賀県教育委員会蔵）



魚鳥料理仕方角力藩附（東京都立中央図書館加賀文庫蔵）



魚丁図式（東京都立中央図書館加賀文庫蔵）



埴玉御鴨場（昭和15年4月堀内讃位氏撮影）



鳥類写生図（国立国会図書館蔵）